

# 山積み残土、住民不安

葛城市平岡区

## 「大雨で崩壊が心配」

### 市が業者は安全性強調 対応検討

葛城市平岡の山林などに土木工事で出た残土がうず高く積み上げられ、付近住民らの中に「つい最近、大阪府内で起こった土砂崩れのように大雨などで崩れないか」との心配の音が拳がっている。隣接地には民家やガレージがあるほか、公民館なども近い。農業用のため池にも一部土砂が流れ込んでおり、同市も対応を検討している。

住民によると、平成22年から盛り土がは家の屋根ほどの高さ

に達したという。そのころから住民が市に改善を申し入れているが、状況は一向に改善されず、現在も土砂の搬入が続いている。

土砂を積み上げているのは市内の業者で、地元平岡区が昨年12月に申し入れを行い、業者からは「残土の搬入よりも搬出を優先」するとのこと、土に埋められた「U字溝及び道を復元する」などとする回答があった。岡本雄嗣区長は「業者とは定期的に協議もしながら、順調に進めている」と話している。

ただ近隣住民の一人は「回答にあるため池等もさせるつもり」と話す。また「中には業者の現場担当者(73)は「県へ開発の届出を行っており、ほりも出さないように水もまいてる。崩れることがないよう、下から順に圧をかけて積んでいる」と安全性を強調した上で「付近の住民には、騒音等で迷惑をかけているので補償等もさせるつもり」と話す。また「中には中



遺物より高くなるか高く積み上げられた土砂  
葛城市平岡

継地で、土砂の一部は五條の現場へ搬出する」などと、農業用ため池に流れ込んだ土砂は境界を測量して取り除くという。  
市農林課は、所有地に土砂を置くこと自体は問題なく、条例等にも触れないと説明。これまでも「危険がないように」と口頭の申し入れは行っているとし、「今後は関係各部や平岡区と話し合いながら対応を検討したい」と話している。